

震災から二年を経て、がれきが片付き、建物の解体が進んでいる日常の中で、石巻の三十代女性は、「今までは風景がセピア色にしか見えなかったけど、少しは色が入ってきたね」と語っていました。

津波で浸食された海岸線には、青葉はまだまだ届きません。その牛歩のような進捗にあきらめ感を覚えながらも私たちは踏ん張ろうとしています。が、やはり心には徒労感を抱え込んでいます。

阪神大震災でもそうだったように、今、メンタル面のケアが求められています。専門家が配置さ

## 東北復興日記

43



れても、呼びかけられても、人々は心を和らげることがなかなかできません。これからは、多方面の興味のある(野外体験・音楽・俳句・手芸等)を、私たちが昨年十月からくることが重要だと思ひ、子ども王国プロジェクト

## 「子ども王国」自立への道

は、宮城県登米市東和町米谷相川の里山をフィールドに、石巻高校の避難所で七カ月間、ともに支え合い生活した仲間と相川の住民が協働し、里山保全活動に取り組むプロジェクトです。

二十年ほど放置され荒地になった山裾の棚田だった約五百坪の場所が、子ども王国の拠点になります。根を掘り起こし、枝やツタを払い、草を刈る地道な開墾作業ですが、みんな夢中になって取り組んでいます。写真。ツタを利用したプランコや丸太を使ったソーもつくりました。秋以降にはツリーハウスや冒険広場づくりにも取り組めます。大人も子どもも本気で遊び、子どもたちは自然のしくみや里山の活用を学んでいます。

この連載は、東京のNPO法人「女子教育奨励会」と、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。

東日本大震災  
圏域創生NPO  
センター事務局長  
太田美智子さん

